

【枚方市】第2次計画		2次計画からの 継続or変更	【枚方市】第3次計画(案)	備考
①	食育に関心のある人の増加	継続	食育に関心のある人の増加	1次計画時からの総括指標であり、食育活動の基本となる指標であることから継続とする。
②	食育活動を実践している人の増加	継続	食育活動を実践している人の増加	数値の調査方法について、「食育活動」を身近な活動として認識できるように、市民意識調査の内容を、個人の活動に着目した設問にするなどの工夫が必要。
③	親子で取り組める食育活動を行っている保育所(園)・幼稚園の増加	★検討中		「親子で取り組める食育活動」にはある程度限界があり、現在実施できていない園は環境的に実施困難なため、今後の伸びしろが期待できない。幼児と保護者、それぞれに対しての食育はほとんどの園で実施している。
④-1	欠食のある幼児の減少	変更	朝食を欠食している幼児の減少	「欠食のある幼児の減少」から「朝食を欠食している幼児の減少」に変更。現状として、朝食を欠食し、朝昼兼用としているケースが多いため。
④-2	朝食を欠食している小中学生・高校生の減少	継続	朝食を欠食している小中学生・高校生の減少	取り組みや対象へのアプローチ方法については引き続き検討が必要。
④-3	朝食を欠食している大学生・専門学校生の減少	継続	朝食を欠食している大学生・専門学校生の減少	
⑤	1日のうちに主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加	継続	1日のうちに主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加	数値の調査方法を、「1日のうち2食以上」に変更。(現行は1日のうち1食でもそろえた人)世代については、市民意識調査の結果を見て検討する。
⑥	歯科検診を受けている人の増加	変更	何でもよくかんで食べることができる市民の増加	国の指標に合わせる。 国の「ゆっくりよく噛んで食べる国民」は主観性が強い、「何でもよくかんで食べることができる市民」に変更。(意識について聞くのではなく、噛める機能について聞く。)その場合の指標の調査方法は市民意識調査とする。
⑦	食育に関する基礎知識を有する人材の増加	継続	食育に関する基礎知識を有する人材の増加	食育Q&Aの大人用を実施する保健センターの講座に限られている。冊子より、A4(表に問題・裏に解答)1枚の方がイベント等で気軽に配りやすい。ダイジェスト版(世代ごとに特化した内容に変更)の配付やダイジェスト版を使って説明した人数を指標の数値にしてはどうか。
⑧	地域人材を活用した食育活動を行っている小中学校の増加	★検討中		現在食育活動を行っていない学校は、地域性や環境から今後も実施することは難しいため、数値の伸び悩みが課題。 学校での体験活動や個人による食育活動を含む等の工夫が必要。 個人での食育活動に関する設問をアンケートに追加し、その結果次第で、指標に反映できるか再度検討。
⑨	ボランティアが行う食に関する教室への参加者の増加	★検討中		2次計画では、食生活改善協議会と健康リーダーが行う教室への参加者数を実績としていた。今後、参加者の増加は難しく、また、この2団体のみの実績で良いのか?⇒食育に関するボランティアが市内にどれくらいいるか、活動内容を把握できるか等を調べてから再検討。
⑩	1日のうちに主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加(日本型食生活の継承)	⑤再掲	1日のうちに主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加(日本型食生活の継承)	
⑪	学校給食での枚方産農産物と府内産農産物の使用率の増加	継続	学校給食での枚方産農産物と府内産農産物の使用率の増加	
⑫	地元農産物直販会の開催数の拡大	継続	地元農産物直販会の開催数の拡大	・直販会(現在10ヶ所)の開催数の拡大には限界があるため、直販会以外に、品評会(年2回)・年末直販会(年1回)・エコ農産物(年2回)・マルシェひらかた(年1回)・農業まつり(年1回)の実績を新たに加えることとする。なお、開催数がほぼ決まっているため、現状維持を目標とする指標となる。
⑬	食べ残しや手つかず食品を処分することが多い人の減少	変更	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合	国の指標に合わせる。
⑭	食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人の増加	継続	食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人の増加	
		新規	1日のうちで家族・友人・職場・地域等、誰かと一緒に食べる共食の回数	★検討事項：市としてどのような取り組み・啓発ができるか?
			中学校給食の喫食率の増加	学校給食課における平成31年度目標：50%
			生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合	国の指標に合わせる。
			農業体験を経験した市民の割合	ふれあいツアー・市民ふれあい農園・穂谷まつりの参加者数を実績として出す。ただし、参加者数は上限が決まっており、大幅な増加は難しいため、現状維持を目標とする指標となる。